

# 松阪市水道事業ビジョン

2020 年度～2029 年度(令和 2 年度～令和 11 年度)

【 概要版 】

～ 末永く市民に信頼され続ける安全で安定した水道事業 ～



令和 2 年 3 月

松 阪 市



# 1. 水道事業ビジョンの策定にあたって

水道事業をとりまく社会情勢は、人口減少による給水収益の減少、更新時期を迎えつつある施設の増加、災害の頻発等の厳しい状況となっており、水道事業の運営基盤を確実に強化し、継続的に事業を進めていくことが求められています。

本市においても、平成 20 年 3 月に「松阪市水道ビジョン」を策定し、その施策の実施、評価を行いつつ、水道事業の運営を行ってきました。

平成 25 年（2013 年）3 月に厚生労働省において「安全」、「強靱」、「持続」を 3 つの柱とした「新水道ビジョン」が策定され、50 年後、100 年後の水道事業の理想像や取り組みの方向性などが示されました。加えて、水道法の一部を改正する法律が施行され、全国的に水道事業の広域化等の取り組みが進んでいくことが想定されます。

これらの国の方針や上位計画である「松阪市総合計画」、さらに、簡易水道の上水道への統合、給水人口や水需要予測の減少等の水道事業を取り巻く状況が大きく変化したことを踏まえて、「松阪市水道ビジョン」の見直しを実施し、新たに「松阪市水道事業ビジョン」を策定しました。

本ビジョンの計画期間は、開始年度を 2020 年度（令和 2 年度）、目標年度を 2029 年度（令和 11 年度）とする 10 年間としています。

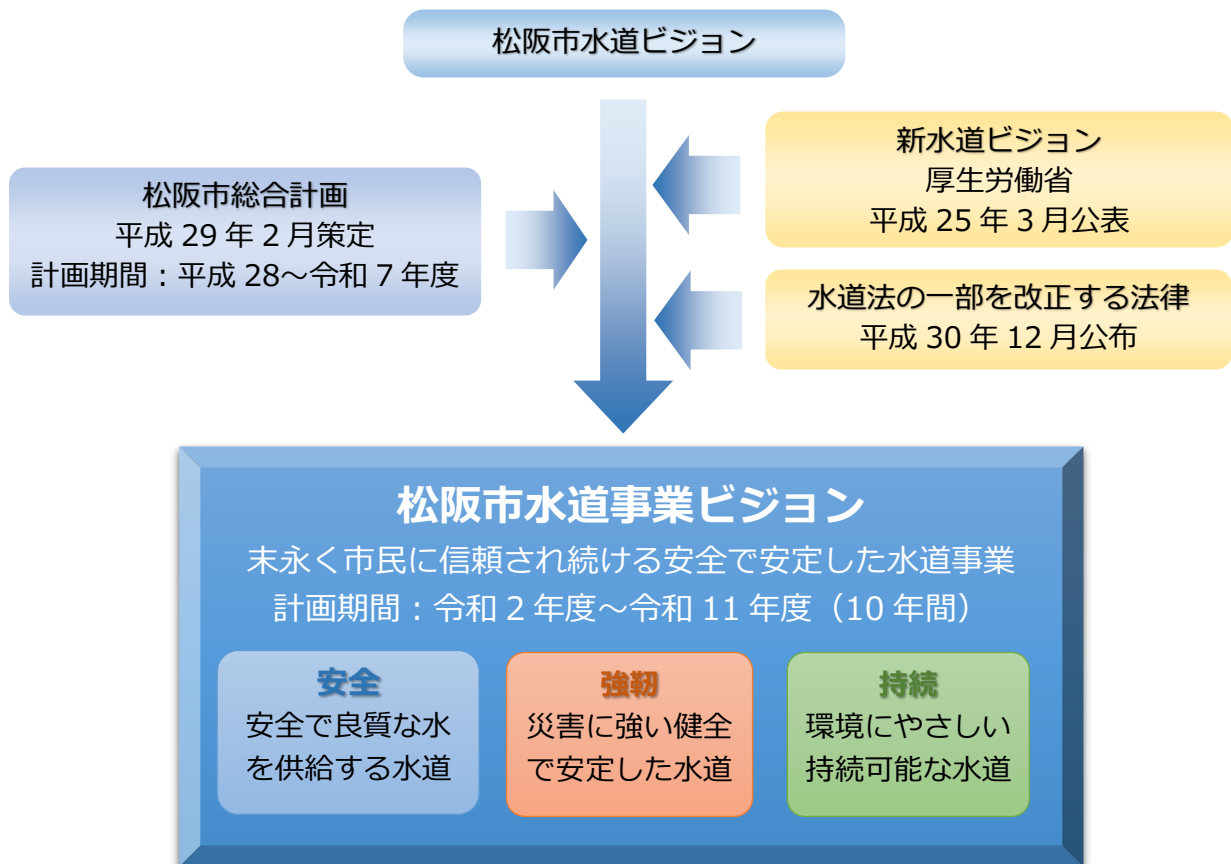


図 1 松阪市水道事業ビジョンの位置づけ

## 2. 水需要の動向

水需要の推移は、給水人口は減少しており、1日平均給水量及び1日最大給水量についても減少傾向を示しています。このため、給水収益は減少することを前提として、老朽化した施設の更新等を実施していく必要があります。

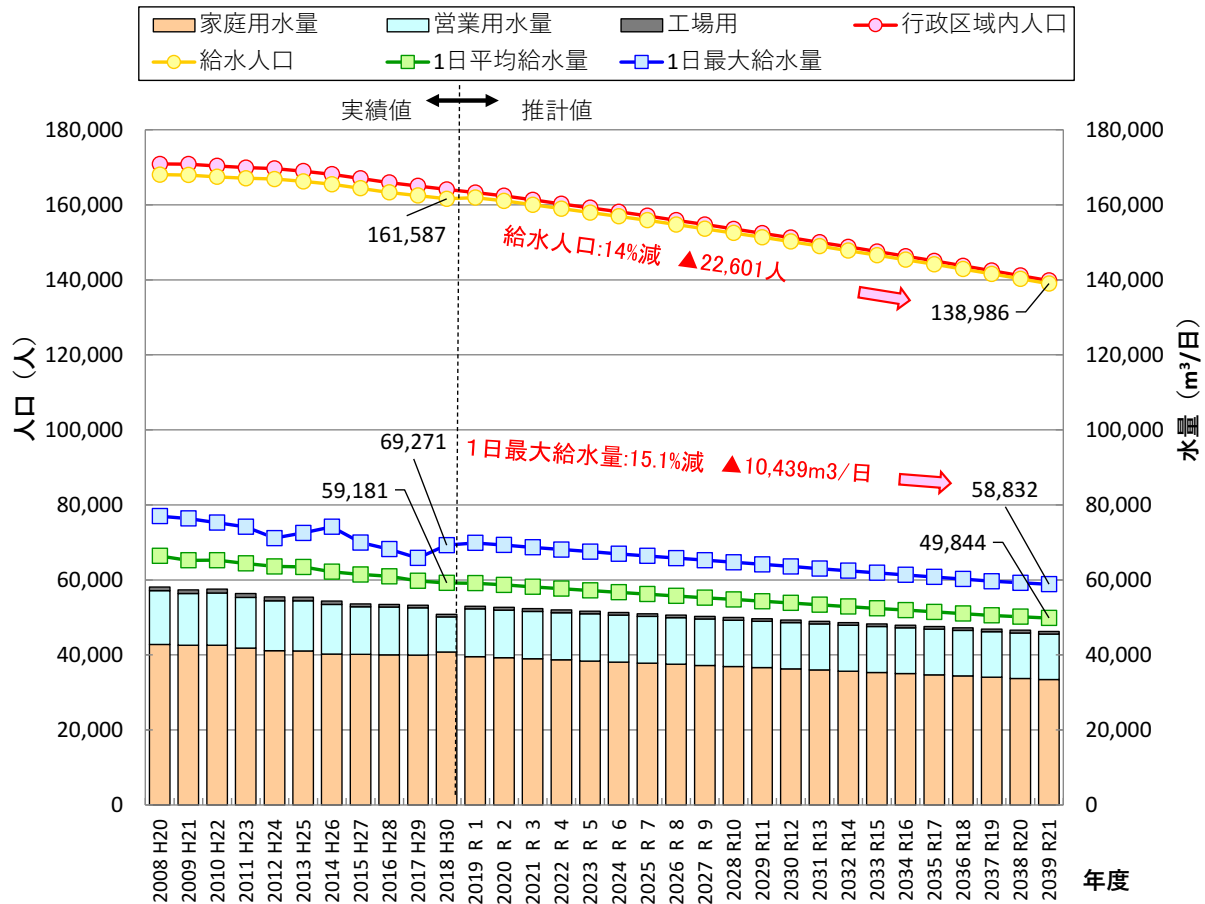


図 2 水需要の推移

### 3. 水道事業ビジョンの体系

松阪市の水道は、次世代に引き継ぐ事業経営を実施することで、「末永く市民に信頼され続ける安全で安定した水道事業」を続けていくことを基本的な使命であると考えます。この目指すべき将来像を実現するために、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点から目標を掲げ、具体的な取り組みである実現方策を設定しました。

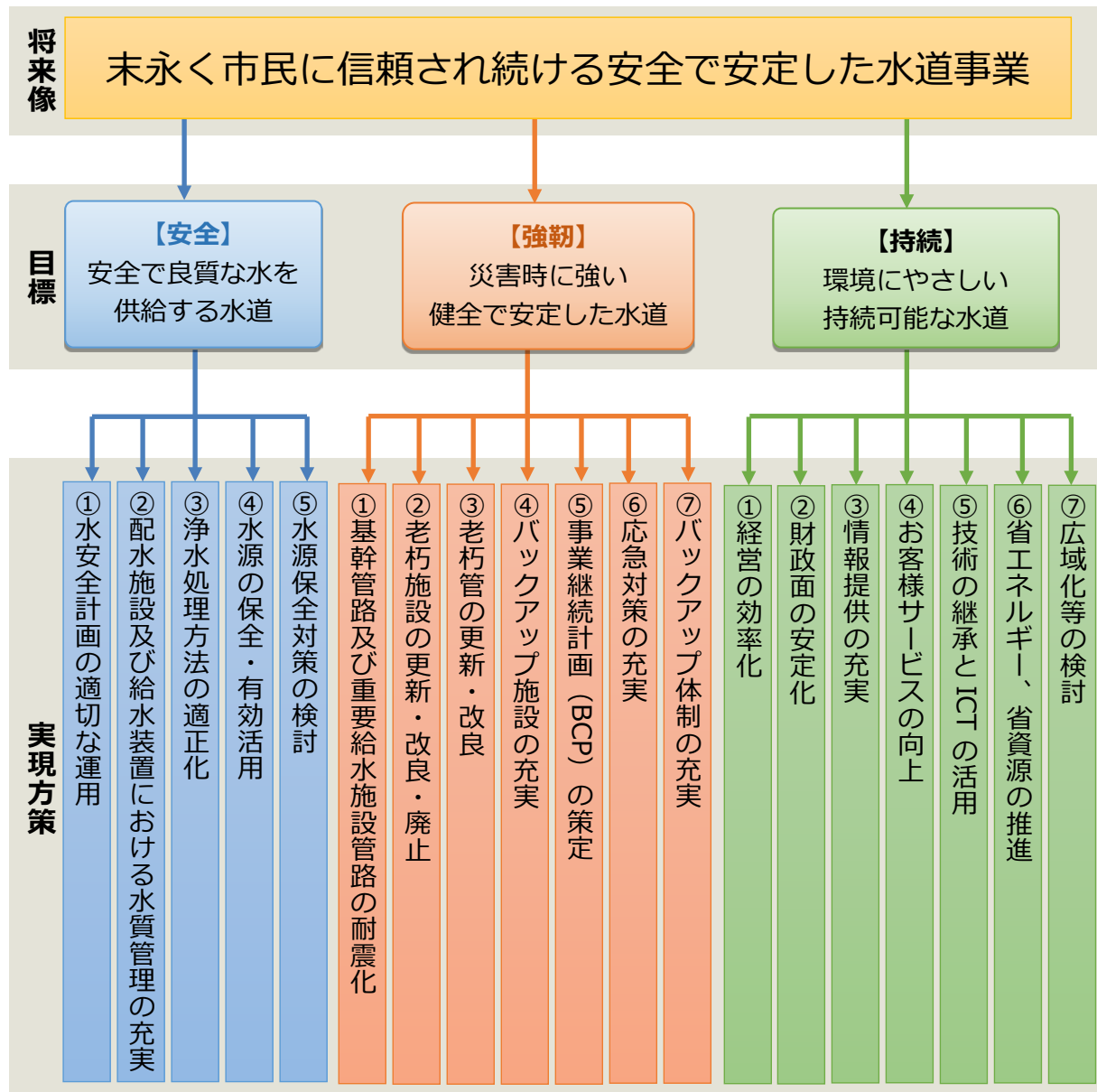


図 3 松阪市水道事業ビジョン体系

## 4. 財政収支の見通し

### (1) 料金見直しを行わない場合

現時点における水需要の推移と県の受水費等により算出した財政シミュレーションでは、今後の給水収益が減少する見込みとなり、令和 12 年度にマイナスとなるため、適正な料金水準に見直すなど、対策を講じてく必要があります。

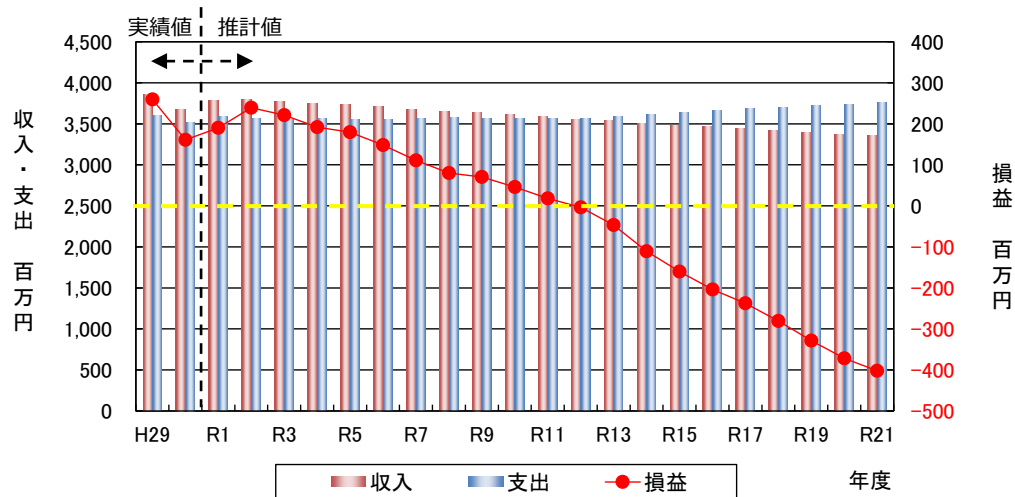


図 4 料金見直しを行わない場合の収益的収支

### (2) 料金見直しを行った場合

企業債の借入を増やさず、かつ内部留保資金残高を現状程度に維持するように調整を実施しながら、40 年後の企業債残高を減少させるように財政シミュレーションを行った結果、令和 8 年度と令和 18 年度に料金見直しが必要となる見込みです。

ただし、給水収益の減少や県の受水費など、今後の流動的な要素が多くあるため、今後は実際の給水収益等を踏まえた財政シミュレーションを定期的実施し、経営状況を逐次分析しながら、料金見直しの時期を検討していく必要があります。

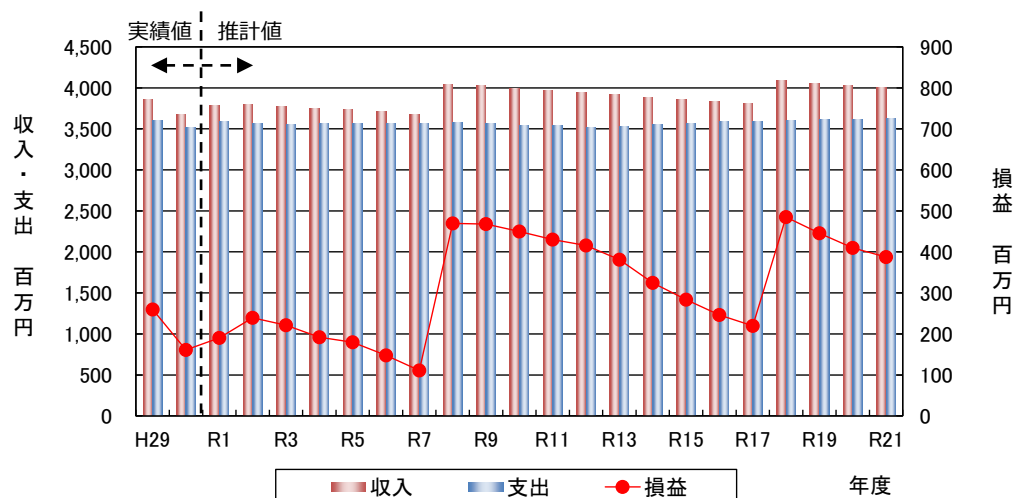


図 5 料金見直しを行った場合の収益的収支

## 5. フォローアップ

事業の実施に当たっては、本ビジョンで定めた施策（Plan）の進捗管理（Do）により、目標の達成状況を評価（Check）し、改善の検討（Action）につなげます。このような、循環システムを構築することにより、着実に水道サービスの向上、ひいては利用者満足度の向上につながるようにします。

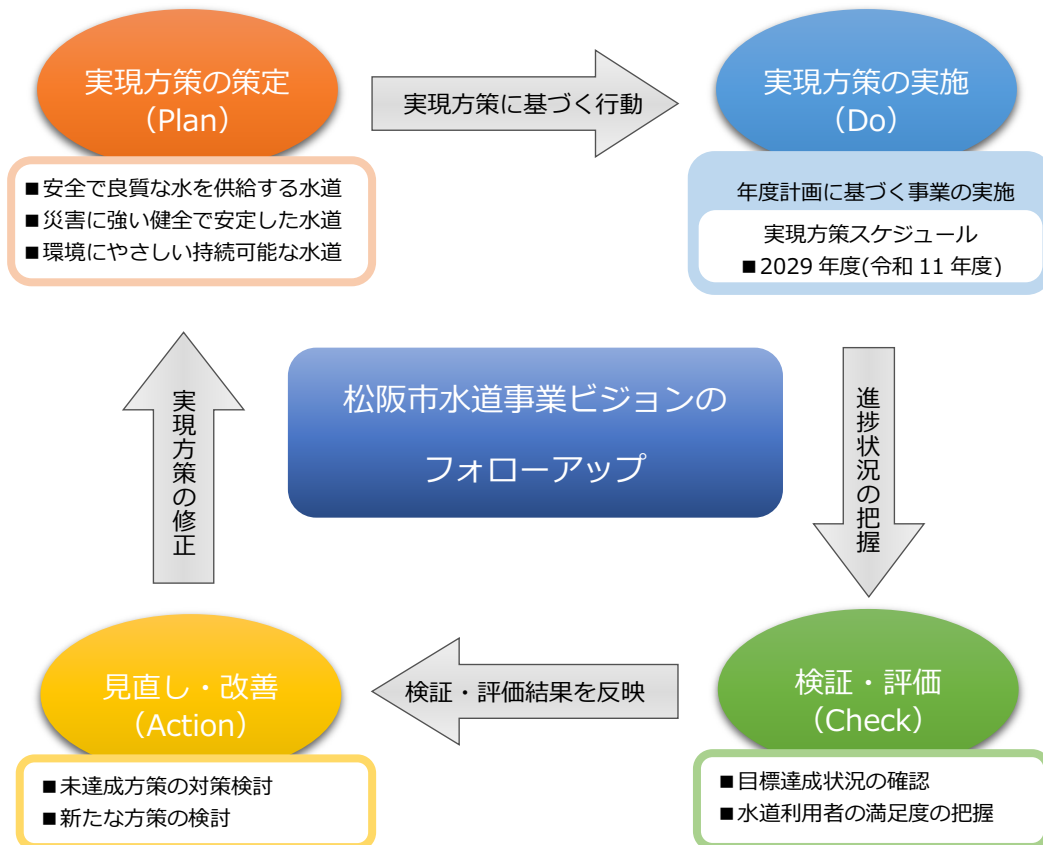
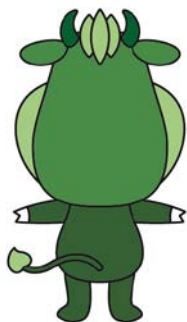


図 6 水道事業ビジョンのレビュー（PDCA サイクル）

【メモ】



---

---

## 松阪市水道事業ビジョン

令和2年度～令和11年度

【概要版】

令和2年3月 策定

松阪市上下水道部

---

---